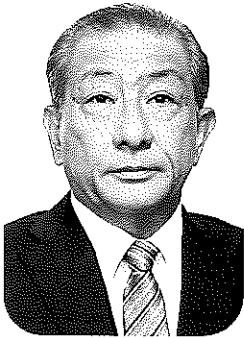


## 平成29年度を振り返って

栃木県中学校長会長  
宇都宮市立陽南中学校長  
高橋 哲也



今年度も残りわずかとなり、各校長先生方におかれましては、教職員評価や高校入試事務、また、卒業式に向けての準備、さらには次年度の学校経営計画の作成など、たいへんお忙しい毎日をお過ごしのこと

と思ひます。

この1年間を私なりに振り返りますと、何より、この中学校長会長という職責の重さを痛感したことでした。年間を通じて数多くの会議や式典、協議会等への出席や原稿の執筆依頼があり、これらに中学校長会を代表して挨拶や意見を表すにあたっては、本当に中学校長会のみなさんの思いや願いを伝えられているのか、常に不安や迷いがありました。さらに、今年度は、関東甲信越地区中学校長会の会長も務めることとなり、その思いは一層強くなるばかりでありましたが、顧問、副会長の先生方のご協力をはじめ、県内外の多くの校長先生方から心温まる励ましや激励をいただき、何とかここまで務めることができました。心より感謝を申し上げます。

さて、今年度の本会の事業を振り返りますと、4月の第1回をはじめ年4回の理事研修会、5月、総会並びに研修会、全日中校長会総会（東京）、6月、千葉市での関東地区中第1回理事会・研究協議会千葉

大会（42名参加）、7月、関東地区中事務局長会（宇都宮市）、8月、県教委との懇談会、9月、関東地区中研究協議会栃木大会プレ大会、関東地区中校長会第2回理事会（宇都宮市）、10月、県教委・県立高等学校校長会との懇談会、全日中東京大会（80名参加）、12月、関東地区中第2回事務局長会（東京）、1月には、関東地区中第3回理事会（東京）とほぼ毎月のように、大きな会議等を重ねてまいりました。事務局をはじめ、多くの先生方のご協力をいただきましたことに、改めて厚く御礼を申し上げます。

次に、今年度、県中学校長会がもっとも力を入れて取り組んできたのが、次年度実施する「関東甲信越地区中学校長会第70回研究協議会栃木大会」の準備でした。すでに昨年度から、大会組織が立ち上がり、事務局を中心に、「総務部」「運営部」「研究部」「編集部」「庶務会計部」がそれぞれ研究計画に従って着々と準備を進めています。県内すべての中学校長の参加により、まさに「オール栃木」の体制で大会準備が進められていること、本当にうれしく思います。また、大会準備に当たっては、前事務局長の後藤 明先生をアドバイザーとしてお迎えし、大会運営に関する様々なアドバイスをいただいています。現在、9月に実施したプレ大会で発表した研究内容の修正・改善、「大会運営要項」「大会案内」「大会誌」の作成もおおむね終了し、関東地区中第3回理事会で承認をいただくところです。

来年6月14日・15日に実施される栃木大会が、栃木ならではの素晴らしい充実した研究協議会となりますことを、心より祈念申し上げます。

## 事務局だより

今年度も残すところわずかになってきました。3月に、千葉県より関東甲信越地区の役員及び事務局が引き継がれ、4月より本会会長の高橋哲也会長が関東甲信越地区中学校長会の会長に就任し、栃木県中学校長会の事務局が関東地区中の事務局を兼務しました。早いもので、1年が過ぎ3月には群馬県に引き継がれます。幹事としてご尽力いただいた、3人の校長先生に感謝すると共に会員の皆様のご協力に

感謝いたします。

また、第70回関東甲信越地区研究協議会栃木大会につきましても、準備が着々と進み、6月の本番まで秒読みの段階に入ってきましたが、まだまだ頻りに会議等でのご協力をお願いすると思います。栃木大会の運営及研究発表をより良いものにするためには、会員の皆様のさらなるご支援・ご協力が不可欠になりますので、よろしく願いいたします。

（事務局長 片桐 晃）

## 県教委との教育懇談会

総務部長 宇賀神 貴  
(宇都宮市立陽東中学校長)

平成29年8月3日(木)、宇都宮市のホテルニューイタヤにおいて、「県教育委員会と小・中学校長会との教育懇談会」が開催されました。

小学校長会20名、中学校長会25名で臨み、県教委側は池田聖教育次長様はじめ18名の関係者の皆様に出席いただきました。中学校長会の高橋哲也会長、池田聖教育次長の挨拶の後、総務部長の宇賀神貴宇都宮市立陽東中学校長が提案事項を説明しました。

### 【中学校長会提案事項】

- 1 現状を踏まえた教職員人材確保と教職員配置の改善
  - (1) 少人数指導、児童生徒指導、不登校、指導法の工夫・改善等のための教員の加配拡充
  - (2) 免許外教科指導及び臨時免許状対応解消のための非常勤講師の増員・配置
  - (3) 正式採用教員の確保
  - (4) 地域連携教員の週休日における服務(勤務態様)の明確化
  - (5) 教育相談体制の充実・強化を図るためのスクールカウンセラーの勤務日の拡充及び資質の向上
  - (6) 地域の給食提供事情を考慮した栄養職員の配置基準の引き下げ、及び栄養職員の配置増

### 2 特別支援教育推進のための諸条件の整備

- (1) 特別支援学級担当教員の計画的な育成と配置
- (2) 障害者差別解消法の施行に伴う、発達障害のある生徒が在籍する通常の学級への非常勤講師の増員
- (3) 通級指導教室への加配教員の増員

### 3 部活動の諸問題の解決に向けた取組の強化

- (1) 国の教員勤務実態調査の結果に基づく部活動担当教員の負担軽減
- (2) 学校教育法施行規則の一部改正に伴う、部活動指導員に関する設置への対応

### 4 その他

- (1) 教職員評価制度の検証・見直し
- (2) 「とちぎっ子学習状況調査」に基づく学力向上に係る施策の充実
- (3) 研修・出張旅費の確保と旅行命令に関する校長の裁量権の維持
- (4) 教職員の精神性疾患の未然防止のための対策の充実

県教委側からは本県の現状や展望を示しながら、国への要望や財政の許す限り努力する旨回答があり、有意義な懇談会となりました。



の期間を長くしてほしい。

- ③ おおよその面接終了時刻を示してほしい。
- (2) 特色選抜について
  - ① 面接順と終了時刻も知らせてほしい。
  - ② 出願については、個人出願にしてほしい。

### 3 募集方法について

- (1) 中高一貫校でも一般入試を実施してほしい。
- (2) 隣接県の細部協定書の発行を早めてほしい。
- (3) 募集定員割れした高校・学科の2次募集を実施してほしい。

### 4 その他について

- (1) 出願変更期間最終日の受付終了時刻を遅らせてほしい。
- (2) 「障害のある生徒の受検に対する配慮願」の名称を改めてほしい。

県中学校長会からの「改善要望事項」について、県教委や県高等学校長会の考えを伺い、意見を交換することができました。子どものよりよい成長を目指す、それぞれの立場で取り組んでいることが確認できる有意義な懇談会となりました。

## 県教委・高等学校長会との懇談会

進路対策部長 佐藤 英夫  
(那珂川町立小川中学校長)

平成29年10月2日(月)、とちぎ青少年センターにおいて県教委、県高等学校長会と県中学校長会(顧問、副会長、進路対策部長)が出席)との懇談会が開かれました。中学校長会から、以下のような要望について、県教委や県高等学校長会から回答をいただきました。そして、それぞれの立場における状況を交え情報交換を行いました。

### 1 一日体験学習について

- (1) 個別に受付をしていただけるとありがたい。
- (2) 実施日の調整を引き続きお願いしたい。
- (3) 一日体験学習の中学校から高校への参加申込み締切日についての共通理解をお願いしたい。

### 2 入学者選抜の方法について

- (1) 一般選抜について
  - ① HPでの発表も10時にしてほしい。
  - ② 特色選抜内定発表から一般選抜の出願まで

## 地区校長会だより

### 塩谷南那須地区中学校長会

塩谷南那須地区中学校長会は、今年度、正式に塩谷地区と南那須地区中学校長会が一つになり、新たな地区中学校長会として動き始めています。

本地区は矢板市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那珂川町の3市3町で構成されています。地区内には12校の中学校(県立附属中を含めると13校)があります。12中学校のうち、氏家中学校は1,000名を越える県内1番の大規模校です。他は中規模校で1校は小規模校です。

昨年度は2つの地区(塩谷と南那須)中学校長会が、合併に向けた合同研修会を実施しました。規約や研修計画の一本化に向けたすり合わせや協議等を行いました。

さて今年度の本地区中学校長会は、地区中学校教育の振興を期することを目的として5つの事業を行っています。それらの内容としては、1 中学校教育に

関する調査研究 2 中学校運営に関する連絡協議 3 教育振興に関する対策活動 4 校長の研修に関する 5 その他、必要事項です。

全員集まったの研修会は年間6回開催しています。研修会では県中学校長会専門部からの伝達や協議事項や地区中学校長会の運営について、各種団体からの説明等、学校運営上の諸問題などを研修しています。

今年度は研修の中で、塩谷南那須教育事務所学校支援課長の横須賀好市先生にお願いし、「栃木県教育振興基本計画2020」の基本理念や基本施策について講話をいただきました。平成30年度関東甲信越地区中学校研究協議会栃木大会分科会の発表内容や紀要原稿、プレゼンの検討なども繰り返し研修しています。「12名(?) 寄れば文殊の知恵」のとおり、意見を出し合い有意義な研修会になっています。

最後に全員が、本地区教育を推進しようと高いモチベーションで活動しています。

[高根沢町立北高根沢中学校長 五味潤俊夫]

### 芳賀地区中学校長会

芳賀地区中学校長会は、真岡市と益子町・茂木町・市貝町・芳賀町の1市4町内の計15中学校で構成されています。昨年度末までは茂木町立中川中学校・茂木町立逆川中学校があり17中学校だったのですが、今春に両校は、茂木町立茂木中学校に統合され現数となりました。

本校長会は、年に6回の定例会を開催しています。前半は小中学校長会という形で、小学校長会との共催で、後半は中学校長会による開催となります。

定例会では、芳賀教育事務所や各市町教育委員会からの連絡や情報交換がなされています。

また、この集まりの機会に2回の研修事業が行われました。今年度の1回目は、小中学校長会合同で、広島大学名誉教授 岩崎秀樹氏を講師としてお招きし、「世界の教育、日本の教育～数学教育の視座から～」と題して、ご講話をいただきました。様々な視点から教育を捉えた内容で、有意義な時間を過ご

させていただきました。2回目は、中学校長会単独事業として、益子町在住の木村昌平氏(元セコム㈱相談役 現益子大使、益子昌平塾長)を講師としてお招きし、「魂に汗をかく～次代を担う教育者の育成～」という演題でご講演をいただきました。中国や西洋の先人たちの言葉を引用した教育への考え方や、大手企業役員の立場から見た人材育成は、心に迫る内容であり、校長と教職員が理念(ビジョン)を共有していくことの必要性や人間力の大切さを気づかせていただく機会となりました。

教育に携わる方や民間企業出身の方を講師とする研修は、直接的・間接的に現場に持ち帰れる示唆に富んだ研修となり、貴重な時間であったと感じています。また、これらの研修会の他にも、年に何度か集まり、会員相互の親睦が深められる場もあります。決して多くの会員を有する地区ではありませんが、和気藹々とした中にも切磋琢磨の気持ちを持ち、特色ある学校経営に寄与する運営がなされています。

[真岡市立長沼中学校長 那花 一廣]

## 足利市中学校長会

足利市は、栃木県南西部に位置する、日本最古の学校「足利学校」のあるまちです。人口は15万人弱、小学校22校、中学校11校、計33校で足利市小中学校長会及び中学校長会を組織しています。毎月行われる情報交換会で喫緊の課題について協議する他、年2回の小中学校長研修会と年4回の中学校長研修会を開催し、研鑽に努めているところです。

足利市には、足利市独自の教育目標があり、私たちは、その具現に向けて日々教育活動を行っています。平成26年度より、学校・家庭・地域社会が一体となって、「豊かな心を持ち、たくましく学ぶ足利っ子〜かしこく・やさしく・たくましく」を育むため、市教育委員会が作成した「あしかがっ子学びのすすめ」を共有し、継続的な取組を行ってきました。その中の「学力アップ10か条」には、①「なぜ」「どうして」が学びのスタート、②授業のはじめにめあての確認、③きまりを守って授業に集中、などがあ

り、導入の工夫や効果的な学習形態の工夫などを行っています。

特に中心になって研究実践を行っている足利市立北中学校では、各種学力調査の分析から、①能力や意欲に応じた学力が身に付いていない、②対話力・支え合う力・共生力が低い、③自己有用感が低い、という課題が把握できたため、研究主題を「主体的・協働的に学ぶ学習指導の工夫・改善」〜すべての生徒が学びに参加する学校経営を目指して〜とし、学力向上に取り組みました。その際、佐藤学先生の「学びの共同体」の考えを導入し、着実に成果を上げています。

佐藤先生が提唱する、「知識や技能を獲得し定着させる『勉強』から、対話によって知識や技能を表現し吟味し合う『学び』への転換」の在り方について研修を重ねることで、「主体的・対話的で深い学び」に少しでも近付ければと、足利市中学校長会一同、只今勉強中です。

[足利市立第一中学校長 関根 景子]

## 小中連携と地域の特色を生かした

### 教育活動の推進

鹿沼市立南摩中学校長 鈴木 成 唯  
南摩地区は、中学校1校、小学校2校の3校の学校がある。この地区は鹿沼市教育委員会より、平成27・28年度の2年間、小中一貫教育の研究指定を受けていた。この期間に培った連携や協力の体制を今年度も継続し、有効に活用して行きたいと思い、『学力向上』という共通のテーマをもとにして、3校が連携、協力し合って教育活動を行っている。

小学校1年生から中学校3年までの義務教育9年間を見越して、学力の向上と定着を図ることが目的である。具体的には、1学期に南摩地区の3校の教職員を集めて、『学力向上』のための学校課題を定めて、3校で取り組んでいくことを確認した。3校で、とちぎっ子学力アッププロジェクトの学力向上アドバイザー派遣指定校になったり、学習指導主任や児童生徒指導主事が集まって、学習のきまりや生活のきまり等について発達段階を考慮しながら、共通に指導できるものを確認したり、新たに決めたり

した。また、それぞれの学校で行う授業研究会や行事等にはそれぞれの学校間で連絡を取り合い、小学校と中学校の職員が協力・連携しやすい環境を作ることを心がけている。

また、本校は地域からも様々な地域行事への参加を期待されている。「地域に貢献できる体験活動」になるので学校でも推奨している。例えば、地域福祉連絡協議会が主催する地域給食サービス事業『ふれあい宅急弁』への参加である。ひとり暮らしの高齢者等にお弁当を作り、届ける事業に中学生も参加し、高齢者や地域のボランティアとの交流を通して、心が醸成されるような活動体験をしている。また、地域フェスティバルへの参加や地域コミセン主催の農園体験等の行事への参加も行い、中学生も地域に貢献できるという実感を味わっている。



## 私の学校経営

### 「挑戦」〜何事にも前向きにチャレンジ〜

大田原市立親園中学校長 鈴木 幸 夫

「これからの時代を生き抜く、健全な生徒を育成する」ことを理念として、学校経営に取り組んでいます。健康な心身と豊かな知識と経験が、より良い生き方に向け、選択肢を広げると考えています。何事にも前向きに取り組むことで、主体的に課題と向き合い、解決の方策を体験的に学ぶ教育活動になるように、本年度の学校経営キーワードを「挑戦」としました。

#### 1 確かな学力

豊かな知識を身に付けるために、教師の授業力の向上を目指した研修の工夫や学びに向かう集団づくりを意図した学級



経営。基礎学力の定着を目指した朝の学習、自主学習ノートの工夫に取り組みました。

#### 2 生徒が主体的に企画運営する行事

体育祭、文化祭、クリーン活動等の生徒会主催、放課後学習会や体育館開放等の自治的な活動に取り組みさせることで、成就感や自己有用感を高め、一人ひとりが輝ける活動になりました。

#### 3 意欲ある部活動

本年度、ソフトボール部が県春季大会優勝で優勝し全国大会に出場、剣道部は女子団体戦で県総体3位になり関東大会に出場しました。各部とも高い目標を掲げ、粘り強く練習に励んでおり、両部の結果は自信と励みになりました。

#### 4 生徒の活動を支える教職員

組織で教育活動に取り組むために、主任会と学年部会を毎週の時間割に組み入れ、情報の共有を図っています。教育相談や生活アンケート、QU検査等の分析結果を共有し、全教職員が個々の生徒理解に努め、共通理解と協働に基づいた指導支援が、若手教員の育成に効果を上げるとともに、不登校生徒ゼロに繋がっています。

### 目指す学校像「共に学び共に伸びる栃西中」

研究主題「基礎基本の徹底と分かって楽しい授業」  
〜ねらいを明確にした学び合い活動を通して〜

栃木市立栃木西中学校長 青木 正 徳

本校では、今年度から学習活動で「学び合い授業」を積極的に取り入れています。この取り組みは、生徒の一人一人の学びを大切に、その質を高めることを目的としています。具体的な理念と方法については、次のように行っています。

#### (1) 協同的な学び（コの字型机配置や小グループ）

① 授業内容が分からない生徒が主体的に、「ここどうするの?」と聴ける雰囲気を作り、参加できていない生徒には援助します。

② 主体的・対話的学びを実現するために3〜4人の班を設定し、学びが滞っている班には、教師が支援助し考えをつなぐようにします。

#### (2) 課題の設定方法

① 共有の課題（教科書の基礎レベル）を設定し、確実に理解できるようにします。

② ジャンプ課題（教科書難易レベル）を提示し、分かりそうで分からない問題を、今までに学んだことを生かし解決を目指させます。

#### (3) 「学びの作法」の設定（生徒向け学習の約束）

① 話し手に体を向けて、人の話を十分に聴くようにし、分からないときは表情で伝えます。

② グループ活動でお互いを認め、分からない生徒が「ここ教えて」と尋ねるようにします。

③ 聴かれた生徒は、理解したことを分かりやすく説明することで、内容を再考察します。

取り組みを始めて、生徒の仲がよくなり積極的に学習する姿が見られるようになりました。これからも、生徒のよさを伸ばすよう取り組んでいきます。

